



HPS Japan
Hospital Play Specialist

静岡県立大学短期大学部

文部科学省 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託事業
離退職保育・看護資格保有者のキャリアアップのための
「HPS Japan」養成教育プロジェクト

すべての子どものために、すべては子どものために

知ってください。
ホスピタル プレイ スペシャリスト
(HPS) のことを。

HPSはコメディカルな立場で子どもの治療に参加する
Multidisciplinary Team(専門多職種チーム)の一員です。



HPS が提供する遊びを通して、子どもたちは
今後おこなわれる医療行為や医療プロセスを理解し、
不安感を軽減することが可能となります。

☆「HPS Japan」養成教育プロジェクトの目的

離退職している保育士や看護師に対し、ホスピタル・プレイ・スペシャリスト (HPS) の理念、役割、技術を教授し、「子どもの福祉」という視点から病児を理解し、支援することのできる高い能力を持ったコメディカル・スタッフを養成します。

また、公開セミナーやワークショップを開催することによって、様々な立場から病児を支える活動に従事している人々をつなぎ、Multidisciplinary Team(専門多職種チーム)アプローチの可能性を探ります。

☆ホスピタル プレイ スペシャリスト (HPS) とは

● HPS は、遊びを使って病児を支援する専門職です。

● HPS は、遊びも病児を元気にする強力なツールだと考えています。

● HPS は、病児の福祉を守るという視点から生まれた専門職です。

● HPS は現在、主に英国とオーストラリア、そしてニュージーランドの病院で活躍しています。

● HPS は、小児医療チームの一員として他職種と協働して働く専門職です。

☆ホスピタル プレイ スペシャリストが提供すること

プレパレーションという言葉を知ったことがあると思います。プレパレーションも HPS が提供する技術ですが、それだけではありません。

● HPSは、治療を受ける子どもたちに、遊びを提供し、日常生活を支援します。

● HPSは、治療を受ける子どもたちが、自分の受ける治療について理解できるよう、遊びを使って準備をします。

● HPSは、子どもたちが処置のあいだ、怖い思いをせず、痛みが軽減されるよう、遊びを使って支援します。

● HPSは、きょうだいや保護者も視野に入れた、遊びのプログラムを計画し、個別支援をおこないます。

Hospital Play Specialist ホスピタル プレイ スペシャリスト

Working with siblings (きょうだいのサポート)

Individual Referrals (個別援助)

Post Procedural Play (手術後の遊び)

Preparation for Procedures (手術の準備)

Distraction Therapy (気を紛らわす遊び)

Normal Play (普段の遊び)

Norma Jun Tai氏 講演資料より



病院における「遊び」の効果とその重要性

① 平常な状態を作り出す

1つ目の遊びの効果は、病児に平常な状態を作り出す効果です。この効果には2つの側面があります。1つは、非日常的な事柄の連続である入院という体験の中に、日常的に親しんでいる事柄を取り入れて子どもにとって平常な状態を作り出すということであり、もう一つは、いつもそうしているように、家族が遊びを通して病児とかわかることができ、入院していても、子どもの幸せに貢献しているという肯定的な気持ちを持つことができるのです。



② 不安感の減少

2つ目の遊びの効果は不安感の減少です。不安感の減少は、病院で遊びを展開する最も大きな目的です。そもそも遊びはその基本的な作用として、子どもにストレスを与える「退屈」という感情を減少させます。また、衝撃的な出来事を経験した子どもは、遊びを使ってその経験を再現したり、その経験について話したり描いたりすることにより、その体験を克服し自己コントロールの気持ちを回復させることができます。しかし、入院している子どもは、HPSのような専門的訓練を受けた者によって遊びを促されないと遊べない精神状態であったりするため、専門家による計画された遊び（Guided Play）が必要となります。

③ 回復時間を早める効果

3つ目の遊びの効果は、病児の回復時間を早める効果です。調査によると、病院に遊びを導入することは子どもの不安感を減少するので、結果、病児の回復は早まることが報告されています。

④ コミュニケーションを促す効果

4つ目の遊びの効果は、コミュニケーションを促す効果です。子どもは、遊んだり、創作活動をしているときに自分の気持ちを表現することがたやすくなります。治療という経験は子どもにとって自己コントロールの意識が低下する経験ですが、遊びを用いて子どものコミュニケーションを促すことにより、いち早く子どもが感じていること、あるいは不安に思っていることなど察知することができるため、治療者との関係ができます。

⑤ 治療行為に対する準備としての遊び

5つ目の遊びの効果は、遊びを用いて治療に対する準備ができます。



プレパレーションの実際

(事例) 腰の骨を手術しなければならない8歳の子どもが、かたくなに手術を拒否していました。HPSはその理由を知るために、遊びを使った個別のセッションを持ちました。実際に医者を使う石膏を持ってきて、人形を使い、子どもと一緒に腰の回りにどのようにその石膏がまかれるのかを遊びながら説明しました。子どもは大喜びで石膏を握り人形の腰の周りに貼り付けていきました。HPSが貼り付けられた石膏のまたの部分を大きくくりぬいた時に、その子どもは「ああ！そうだったの！そこはあけておくだ！」と叫び、同時にほっとした笑顔を浮かべました。子どもが手術を拒否している理由は、またの部分も石膏でふさがれてしまうと思っていたので、排泄物もその中でためておかなければならないと想像していたためなのでした。

HPSと看護師との協働ケース ディストラクションの実際

ホスピタルプレイスペシャリストは女兒に「何をして遊ぶのが好き？」と尋ねました。子どもは「お絵かきとか、本を読むのが好きかなあ」と答えました。「じゃあ、今日の検査の間、お絵かきか、本を読んで過ごそう」とHPSが提案したところ、子どもは「えっ！そんなことできるの」とびっくりした表情。「もちろんできるんだよ。どうやってするか説明するからね」と言いながらお母さんに椅子をすすめました。「まずね、お母さんがこうやっていすに座るからね。そのおひざにお母さんに抱きつくように座ってね。私は、あなたの顔が見えるところに座るからね。そして大好きな本を読んであげるよ。その間に採血は終わってしまうんだよ」ニコニコ顔の女兒。「検査について説明するからね。検査は看護師さんが行きます。看護師さんは手を持って(実際にやってみる)そして注射器を使って、あなたの腕から少しだけ血を抜きます。検査に必要なだけしか抜きません。これは絶対に約束するからね。そして、注射器が入っている時間は、この本を2ページぐらい読む間かな。全部この本は読めないかもしれないけど、ここで読んでから帰ってもいいんだよ。検査の説明は大体こんなところなんだけど、何か聞きたいことはありますか？」「うーん、ないみたい」「じゃあ検査をしてくれる看護婦さんを呼ぶよ」女兒元氣よく「うん！」と返事をしました。

看護師さんが検査室に入ってきました。短い挨拶だけで、後は何も言いませんが、表情は柔らかく笑みを浮かべています。HPSが女兒に、「じゃあさっき練習した座り方をやってみよう。そう上手だね。じゃあ私も本を読み始めるからね」と言いながら本を女兒に向かって読み始めました。目で看護師に合図を送り、看護師は静かに女兒の腕を持ち採血の準備をしました。HPSが「じゃあ採血は始めるけど、気持ちはこっちに集中していてね」と言って読み続けました。子どもは一生懸命HPSの読む本を見えています。看護師は一言も発することなく静かに採血を終えました。HPSが「もう終わったよ。気づいていた？」と言うと、「えっ分からなかった」とうれしそうにお母さんの顔を見る女兒。子どももお母さんも不安そうな表情を浮かべることはほとんどなく、泣き声もなく、採血は終わりました。看護師が、「この人たち(HPS)が来る前は大変だったんだよ」と話すことが印象的でした。



HPS Japan
Hospital Play Specialist

離退職保育・看護資格保有者のキャリアアップのための「HPSJapan」養成教育プロジェクト

文部科学省社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託事業

静岡県立大学短期大学部
UNIVERSITY OF SHIZUOKA, JUNIOR COLLEGE
〒422-8021 静岡市駿河区小鹿2丁目2番1号
電話・FAX 054(202)2652 / Mail:hps-japan@u-shizuoka-ken.ac.jp
<http://oshika.u-shizuoka-ken.ac.jp/index.html>